

平成26年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473800611	事業の開始年月日	平成16年3月1日
		指定年月日	平成16年3月1日
法人名	特定非営利活動法人 都筑の丘		
事業所名	グループホーム 都筑の丘		
所在地	(〒224-0057) 神奈川県横浜市都筑区川和町1705		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	27名
		ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	平成27年2月1日	評価結果 市町村受理日	平成27年6月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GH都筑の丘は今年3月で設立11年を迎えます。開所当時から入居されている方が3名いらっしゃり、平均入所期間が4.8年となっております。今まではあまり感じなかったのですが、入居者の方の認知症の進行、また身体機能の低下がみられるようになってきました。下肢筋力の低下、食事量の低下、嚥下力の低下などがみられます。今までは、入居者の皆様に楽しく安心して生活して頂くことを目標にしてきました。今後は今より重度化させないための新たな援助方法を考えていかなければならないと思っています。加齢の一言で片付けず入居者の一人一人に合わせたケアを提供していきたいと思えます。地域の方々に支えられ恵まれた自然の中で四季を感じながら穏やかに過ごしていただいています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成27年2月26日	評価機関 評価決定日	平成27年5月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 <p>この事業所は、市営地下鉄川和駅から徒歩10分の、自然環境豊かな「都筑の丘」にある。約2000坪の敷地内には梅、桜、はなももなどの四季折々の花が咲き、菜園では季節の野菜や果実が沢山収穫される。建物は平屋（1ユニット）1棟と、2階建て（2ユニット）1棟で計2棟、3ユニットとなっている。どの部屋からも花が見えるように配慮している。</p> 【自然環境を活かした機能訓練の実施】 <p>理念の一つである「五感を刺激し、個人の能力が発揮できるように支援します」に沿って機能訓練を実施している。毎週月・木の午前中に3棟の利用者は、車いすの方も含め全員が中庭に集合し、全員でリハビリ体操、音楽療法、早口言葉などの機能訓練を楽しみながら行っている。全棟利用者が顔見知りになり、避難訓練の効果にも結び付いている。</p> 【地域との強い連携】 <p>事業所の納涼祭や餅つきには地域の方々が多数参加し、保育園児は菜園に芋ほりに来て利用者と交流している。避難訓練には地元消防団や地域住民が多数参加しており、地域との強い連携がある。</p> 【医療体制の充実】 <p>協力医である内科医の往診が月2回あり、利用者全員が受診している。往診のない週は看護師が健康管理のため来訪する。土・日も午後9時まで対応可能である。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム 都筑の丘
ユニット名	みずき棟・やまぶき棟・あじさい棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中の「地域社会の一員として心豊かな生活を送れるように支援します」を大事にしています。5つの理念は名札の裏に明記しいつでも確認できるようにしている。	理念を事務室、会議室に掲示し月曜日の朝礼時に唱和している。職員の名札の裏にも明記している。新入職員には入職時に説明し、業務中に確認し、毎日のケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の皆様が常に見守ってくださり。時には厳しいお叱り、注意をいただきこともありますありがたい受け止めています。散歩の時には声をかけていただいたり、野菜や柿をいただいています。	町内会に加入し、夏祭りや芸能祭に利用者も参加している。近隣保育園児とは事業所の菜園での芋ほりを通じて交流し、中学生を職業体験で受け入れている。事業所の納涼祭や餅つきに地域の方も多数参加し、利用者とは交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	川和小学校の認知症サポーターの講師、近隣の中学校の職場体験、夏休みのボランティア体験の受け入れをしている。ハロウィンの時は学童保育の子供達が仮装をして来てくれました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議とイベントを同じ日にして参加していただき10月はホームの昼食を食べていただきながら話もはずみました。今後は多くのご家族に参加していただく予定です。	会議は年4回開催している。町内会長、民生委員、婦人部長、地域包括支援センター職員、ボランティア代表、利用者、家族がメンバーとなっている。活動報告のほかに、防災訓練、地域のサロン開催希望などについて、意見交換している。	メンバーが出席しやすいように、開催曜日を柔軟に対応するなどして、地域のいろいろな立場の方々から意見を引き出すことを期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村主催の研修、勉強会にも積極的に参加し、区役所主催の認知症サポーター連絡会、認知症フォーラムのスタッフとして活動している。	運営推進会議の議事録は区へ郵送している。要介護認定申請代行時などに近況を報告して連携している。区の認知症サポーター連絡会やフォーラムに参加している。市グループホーム連絡会に参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないという前提でケアを行っている。玄関の施錠に関しては周囲の環境、認知症であるが故必要な方法であることをご家族に入居時に説明してご理解頂いている。	毎年、身体拘束防止の研修を実施している。玄関は安全のため家族の同意を得て施錠しているが、外出希望に応じて、毎日午前・午後に散歩に出かけている。居室からは自由にテラスに出られる。スピーチロックにはその都度、注意をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	肉体的なものだけではなく、精神的な虐待（特に言葉の暴力）は絶対に行ってはいけないことを徹底している。職員同士で異常が見られたらすぐに報告、原因究明をするようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は自立支援の重要性を理解しており、日々実践している。権利擁護に関しては地域の住民の為の勉強会を企画し職員も参加したことがある。成年後見人の必要性は理解している。制度を利用されている方もいた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時相談員が利用者、及び代理人の権利（第10条）義務（第13条）契約解除（第14条）をわかりやすく説明し、納得していただき同意を得て契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価のアンケートの回答を全職員に見せて、改善すべき点は早急に検討し実行している。ご家族が来棟された時、ホーム長が近況報告をしながらお話を伺っている。場合によっては管理者が対応している。	家族の要望はケアプラン説明時や来訪時などに聞いている。要望は「入居者相談状況表」に記載し職員間で共有している。外部評価のアンケートで出された要望から、メールでの連絡を希望する家族には配信を始めた。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のワーカー会議で出た問題点、改善案などはその場で解決し即実行している。各行事の実行委員による反省会が出されたことは来年度に反映されている。	毎月ユニット毎のワーカー会議があり、職員が意見を言う機会となっている。食事中の事故を防ぐため、利用者の嚥下状態によって餅を白玉に変えるなど、職員の提案を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の持っている能力、実績、貢献度などを公平に見極め、職員が向上心を持って安心して働けるよう努力している。介護職員処遇改善交付金は年3回支給している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士、介護支援専門員の受験時にも便宜を図っている。社内研修は全職員が参加できるように日程を組んでいる。社外研修にも多くの職員が参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜高齢者グループホーム連絡会、神奈川高齢者認知症グループホーム協議会に加入し複数連携事業にも参加し交流をしている。都筑区の認知症サポーターとして活動している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族に作って頂いたアセスメントをもとにしながらお話をします。入居初期は緊張や不安が多く、職員だけではなく、他入居者にも協力していただいて対応をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の入居者さんに対するの思い、ホームに対する希望など遠慮なく言える雰囲気を作り、ご家族が安心して頂ける環境を作っている。納得出来るまで見学相談をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人の不安な気持ちを理解し、あせらずに根気よく対応をしている。帰宅願望はあって当然と職員は理解して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	9人の入居者と職員が下宿屋さんのように暮らせることが理想。それぞれの得意分野を職員が把握し協働している。時にはトラブルも発生するが、それも日常生活と捉えている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはいつでも、気軽に来て頂ける様にしている。家族と職員が協力しあうことが入居者さんの安心と安定に繋がると思って援助している。ご家族に安心していただくこともケアと考えている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで過された環境を大切に、家族、友人の訪問、外出はとても良いことだと思っている。	友人が訪ねて来て、居室で話をしたり、一緒に外出することもある。電話を取次ぎし、年賀状や絵手紙を出す支援をしている。いつも散歩に行く近所の八幡様や瑞雲寺の住職などと顔なじみになっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人、合わない人を職員が常に視野にいれている。仲よし同士で入浴したり、遅くまで訪室しおしゃべりをしていることはとても良いことだと思っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現段階では該当するケースはありません。今後必要なケースが出現した場合は相談、支援していきたいと思いません。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族、ご本人の思いを大切にし、個別ケアを大切にしている。家に帰れない悲しさ、思うようにならない苛立ち等を自然なことで職員は受け止めて対応している	アセスメントや日常生活の中で希望や意向を聞き出している。コミュニケーションの取りにくい方は表情や仕振りで判断することもある。一部の方にはセンター方式を採用し、利用者の方の心身の変化を記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に幼少時から現代までの状況をご家族と一緒にアセスメントを行い今後のケアに反映させている。お話しの中ででてくる分からない事はご家族にその都度お聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調、気分、天気等を視野に入れながら過ごしていただいている。手伝いをしていただくことで職員も助かっていることが多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケース会議を行い職員は入居者の状態を報告し、対応方法を検討している。ケアプランの変更も随時行っている。	毎月のユニット会議には職員全員が出席して、モニタリングを行っている。その後、家族の意見や医療情報を取り入れて介護計画を作成している。通常は6か月毎に、心身等の変化時にはその都度見直しをしている。職員はケアプランを心得て、ケアに当たっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の業務日誌、ご家族に送付している報告書、職員間の連絡ノートは出勤したら必ず読み情報の共有を徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関との連携、川和町町内会、婦人会、地元の消防団、保育園、小・中学校、学童保育、地域包括センターなど多くの協力を得て多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	書道、絵手紙、音楽療法、園芸療法、お茶会、納涼祭、餅つき、囲碁などの地域ボランティアの方たちのご協力、ご近所の方たち見守り助言などを頂きながら安全で豊かな生活が送れるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かり付け医（内科・整形外科・歯科）による、定期的な往診。急変時の対応に職員。ご家族も安心している。	利用者全員が、協力医である内科医の往診を月2回受け、往診のない週は看護師が訪問し、健康管理をしている。協力医は土日も午後9時まで対応可能である。訪問歯科は毎週訪れている。眼科、耳鼻科の受診は家族が対応している。訪問マッサージは3名が利用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	掛かり付け医の看護職員と往診・受診の時に相談できるようにしている。電話での相談もいつでも快く対応してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、カンファレンスにはホーム長、管理者が同行して病院との連携を計っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時、ワーカー会議で職員がどこまでケアできるかを話し合い、掛かり付け医、ご家族と相談しながら特別養護老人ホーム、ケア付き有料老人ホームへの入所に繋げている。終末期の対応も取り組んで行きたいと思っている。	基本的に看取りはせず、状況に応じて医師と相談して対応方針を決める。本人・家族には事前見学の時点でそのことを説明している。特別養護老人ホームや病院と連携し、出来る限り希望に応えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修で応急手当の訓練を行っている。また、救急マニュアルを緊急時すぐに見ることが出来るようにしている。事故が発生した時はそれを教訓として事例検討している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震発生による火災を想定した避難訓練や地域の消防団の協力による独自の消防訓練を行っている。	避難訓練は年2回、うち1回は消防署立ち合いで夜間想定訓練を実施している。地元消防団や地域住民も参加する。敷地内の倉庫に食料・水を備蓄している。その他に毛布を備えている。	災害時の地域との協力関係はありますが、今後はさらに事業所の広い敷地や大きな建物を地域住民の避難場所として提供するなど、地域への貢献を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎年4月に接遇研修を行い、笑顔の重要性、言葉遣い、所作、態度などを学んでいる。日々のケアの中で気付いたことは、その場で職員同志で注意をしている。	職員には入職時に言葉使いや接遇の研修を実施している。毎年4月に、職員全員を対象に接遇の研修を行い、再確認している。利用者には人生の先輩として尊敬の念を持って接するようにしている。個人情報を含む書類は施錠して管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや気持ちが表現できるような環境、雰囲気を作っている。散歩、レクリエーションなどの参加も自由で入浴時間なども希望の時間にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、気分を優先して一人ひとりのペースを大切にしている。一日のスケジュールは特に決めず、天気、入居者の希望を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装はできるだけ自分で決めて頂いている。できない方は職員が季節や好みを考えながら支援している。訪問理容院により好みのヘアスタイルにして貰っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者が一緒に食事作り、盛り付け、配膳を行っている。食後は食器拭き、片付けも行っている。得意分野でお手伝いをするにより、様々な良い効果がでている。	献立は栄養士が立て、必要な食材を地元商店に発注している。職員が調理し、利用者も盛り付けや配膳などを手伝っている。畑で収穫した作物が食卓に上ることもある。職員も利用者と一緒に食事している。出前や外食など、食事を楽しむ機会もある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスの良い献立をもとに、一人ひとりの摂取量を職員が把握している。制限のある方は毎回計量している。摂取量が少ない方は医師に相談しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週火曜日に歯科衛生士による口腔ケアを行っている。職員も歯科衛生士による口腔ケアの指導を受けている。毎食後に職員が歯磨きの見守り、介助をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の記録をもとに、それぞれの排泄パターンを把握し、トイレの声かけを行い、リハビリパンツ、尿とりパッドを使用している。トイレでの自然な排泄ができるように支援している。	排泄チェック表でパターンを把握してトイレへ誘導し、トイレでの排泄を支援している。夜間は原則睡眠を優先するが、その方に合わせて誘導することもある。排便コントロールの必要な方は回数と量を把握している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因で不穏になられたり、具合が悪くなる事を職員が理解している。水分コントロール、散歩や体操とそれぞれの方に合わせた対応をしている。医師より困難な時は薬を処方している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一日おきの予定があるが本人の気持ちを大切に、希望にあわせて入浴出来るようにしている。入浴拒否の強い方には無理じいはせず気持ち良くはいついていただけるよう努力している。	入浴は、原則1日おきに週3日入るが、希望により毎日入る方もいる。入浴を好まない方には気分を変え、声かけする職員を代えたり、入浴前に体を動かして汗をかいてもらうなど工夫している。季節にはしょうぶ湯やゆず湯を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来る限り、お手伝い、入居者同士のおしゃべり、散歩、余暇支援をすることが夜間の良眠にあわせ、居室で休息したり、昼寝をしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬のことががすぐ分かるように 薬情書、また与薬時の誤薬の防止のための服薬管理表がすぐみられるようにしてあり、薬の変更、増減、中止などがある時は連絡ノート、引継により徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や入居者の希望にあわせ毎月外出行事を行っている。図書館、美容院（パーマ、毛染め）はご家族に協力して頂いている。友人との外出もある。	天気の良い日は午前と午後でコースを変えて近隣の散歩を楽しんでいる。季節行事としてズーラシアやお花見、アジサイ公園、レストランへの外食などに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症であることによる、金銭トラブル、妄想等の出現あり、金銭は預からざるを得ない。ご本人には家族が預っていることを納得して貰っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の場合はご家族と相談の上で、掛けたいと言われた時にホームから家族、友人に電話をしてかけていただいている。自分で描かれた絵手紙を友人、家族に出している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要の無い音（誰も見ていないTV）職員同士の大きな声、程よい明るさなどの環境を大事にしている。季節ごとのディスプレイは入居者も参加しながら楽しんでいる。	リビングの天井が吹き抜けで廊下も広い。温度、湿度に配慮し、掃除をこまめにして、清潔で居心地良い共有空間作りに留意している。訪問時には利用者の習字や絵手紙を壁に貼り出し、季節のおひな様を飾りつけていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファが2つ置いてあり入居者同士が楽しく過ごしている。一人になれる空間にもなっている。入居者同士お互いの居室を訪れてコミュニケーションをとっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具、お気に入りのカーテンなどそれぞれの入居者が工夫して生活している。	居室には広いクローゼットがあり、テラスに面していて解放感がある。衣類タンス、テレビ、仏壇などが持ち込まれている。災害時の家具転倒防止のため、胸の位置より低い家具を揃えている。家族写真に囲まれて、気の休まる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広い廊下とリビング、ダイニングを介してさりげない見守りができるように対面式キッチンにしてあり。食事の盛り付け、配膳、食器拭きなどのお手伝いなどが安心してできる。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム都筑の丘

作成日 平成27年5月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議の開催曜日をメンバーが出席しやすいように柔軟に対応すると、いろいろな人の意見が引き出せるのでは	開催日を特定せず多くの方に参加していただけるようにしたい	今までは土曜日に開催していたので、平日の開催も視野に入れ参加者の調整をして行きたい	次回開催日（1か月）
2	35	災害時の地域との協力関係はありますが、今後はさらに事業所の広い敷地や大きな建物を地域住民の避難場所と提供するなど、地域への貢献を期待します	今までは地域の皆様にお世話になることが多かったのが今後は、地域貢献を目標にしたい	認知症に関する相談などを気がるにしていけるようなオープンな環境を作りたい。また災害時ホームの広い敷地を近所の住民の緊急避難場所として提供できるようにしたい	1年
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。